

会 議 録

会議の名称		つくば市未来構想等推進会議 委嘱状交付式 令和２年度（2020 年度）第１回つくば市未来構想等推進会議			
開催日時		令和２年（2020 年）10 月 2 日（金） 10:00 開会 12:00 閉会			
開催場所		つくば市役所５階庁議室			
事務局（担当課）		政策イノベーション部 企画経営課			
出席者	委員	辻本委員、上村委員、星野委員、松信委員、吉瀬委員、中井委員、布浦委員、宇津野委員、小河原委員、山崎委員、小川委員、浦田委員、島田委員、土田委員、永井委員、根本委員、神谷委員、山本委員			
	その他	五十嵐市長、飯野副市長、毛塚副市長			
	事務局	森政策イノベーション部長、杉山政策イノベーション部次長、大越企画経営課長、会田企画経営課長補佐、中村企画経営課長補佐、大見係長、栗島主事			
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開		傍聴者数	0 人
議題		(１) 未来構想等の改定と概要 (２) つくば市未来構想等推進本部・推進会議の設置について (３) 令和３年度つくば市戦略プラン事業実施計画（案）の策定について (４) 今後のスケジュールについて (５) その他			
会議次第	【委嘱状交付式】 1 開式 2 委嘱状交付 3 閉式				
	【令和２年度第１回つくば市未来構想等推進会議】 1 開会 2 座長及び副座長選出 3 市長挨拶 4 議事 (１) 未来構想等の改定と概要 (２) つくば市未来構想等推進本部・推進会議の設置について (３) 令和３年度つくば市戦略プラン事業実施計画（案）の策定について (４) 今後のスケジュールについて (５) その他 5 閉会				

<審議内容>

○政策イノベーション部次長 只今よりつくば市未来構想等推進会議の委嘱状交付式を開式いたします。よろしくお願いいたします。

委嘱状交付に当たり、つくば市未来構想等推進会議委員の就任を御了承くださいました皆様を御紹介いたします。

【令和２年度（2020年度）つくば市未来構想等推進会議委員紹介】

○次長 以上20名でございます。

続きまして、委員の方へ委嘱状を交付いたします。

お時間の都合上、代表で、市民公募委員の名簿順で浦田様に交付させていただきます。御準備のほどお願いいたします。

〔委嘱状交付〕

○次長 ほかの委員の皆様方には、既にお手元に配付させていただいています。よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、つくば市未来構想等推進会議委嘱状交付式を閉式いたします。

続きまして、第１回つくば市未来構想等推進会議を開催いたします。座長が選出されるまで、私が進行を務めさせていただきます。

初めに、本推進会議の座長、副座長を選出していただきたいと思います。つくば市未来構想等推進会議設置要項第４条に、座長及び副座長は委員の互選によって定めると規定されています。どなたか御意見がございましたら、よろしくお願いいたします。

○委員 事務局一任でお願いしたいと思います。

○次長 ただいま御意見を頂きましたので、事務局から提案を申し上げさせていただきます。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○次長 ありがとうございます。それでは、お願いします。

○事務局 それでは、事務局のほうから御提案申し上げます。座長につきましては、社会工学が御専門で、都市構造、地域制度にも造詣の深い、筑波大学の吉瀬委員を御提案させていただきます。

また、副座長につきましては、現在の未来構想等を策定した際にも未来構想等審議会副会長として御尽力いただきました、つくば市議会議長の神谷委員を提案させていただきます。

○次長 ただいま吉瀬委員を座長とする提案がございましたが、いかがでしょう

か。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○次長 ありがとうございます。次に、神谷委員を副座長とする提案がございましたが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○次長 ありがとうございます。委員の皆様の互選により、吉瀬委員が座長に、神谷委員が副座長に選出されました。よろしくお願いします。

それでは、この場で大変恐縮ですが、吉瀬委員、御挨拶をお願いいたします。

○座長 どうもありがとうございます。筑波大学の吉瀬と申します。専門は最適化で、社会工学において最適なサービス資源の配分などを計算させていただいています。この会の座長を引き受けさせていただきますので、大変重責を感じています。この会の成果が上がりますよう一生懸命、微力ですがお手伝いさせていただければと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

○次長 ありがとうございます。続きまして、神谷委員、御挨拶をお願いいたします。

○副座長 副座長を仰せつかりました、つくば市議会議長の神谷大蔵でございます。当会議が、未来構想や戦略プランの進行管理を行います非常に重要な場となりますので、市民を代表する市議会議員の立場といたしまして、しっかり意見を述べつつも、座長をサポートし、議論をまとめていけるよう尽力していきたいと考えています。

また、未来構想に掲げる未来に向けて順調に進んでいけるかどうか、私自身も期待しつつ、委員の皆様とともに進捗をチェックし、進むべき未来に向けて後押ししていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○次長 ありがとうございます。続きまして、五十嵐市長から挨拶を申し上げます。

○市長 改めまして、おはようございます。このたびは、委員をお引き受けいただきまして、ありがとうございました。

今、議長からお話がありましたけれども、この未来構想というものと戦略プランが何かというと、これは、つくば市の最も重要な構想と、そして最も重要な計画です。皆様にとっては言うまでもないことかもしれませんが、これは何度強調してもし切れないくらい重要なものです。

これを策定する際にも、例えば庁内・職員には、このプランに入っていない事業は新規事業としては作れないということを強調して、各課から自分たちが

将来的にやりたい事業も出すようにという指示をして、そういった中で作られてきたものです。

ですので、その進捗をきちんと管理をしていくということが非常に大きいわけですね。絵に描いた餅にしてしまっただけでは、せっかくいいプランをつくったにもかかわらず、ありがちな、やっぱり行政は立派な計画は作れるけれども、作ったらもうおしまいというようなことになってしまうということになってしまいかねないので、ぜひ皆様に忌憚のない御意見をいただければと思っています。吉瀬先生には座長として、非常に幅広いものというか、まさに御専門の部分でして、これを実現するためのお力をいただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この未来構想は、皆様お目通しいただいている方が多いかと思いますが、でも、「つながりを力に未来をつくる」ということを掲げて、2030年までのかなり野心的な事業を掲げています。

今、コロナウイルスがこれだけ世界中に広がって、世界がこの先どういう方向に行くのかということに、幾らかの戸惑いと迷いと、そんなことが世界中にあると思いますが、私が今考えているのは、コロナだからといって何か方向性を変えろとか、そういうことではないのだろうと。むしろ、今までつくば市が進めようとしてきた方向性を加速させる動きに、このコロナというのがなっている、あるいは、そうしていかなくてはいけないという思いを私は持っています。

ほんの一例お話をしますと、私は常々、まちに周辺部の地区から中心部に人を吸い寄せてしまうような求心力ではなく、むしろ中心から周辺地区に人と物の流れを生み出していくような遠心力を働かせたい。そしてその各地域地域でコミュニティが分厚くなっていったら、多少の変化にも動じない包摂的な地域のコミュニティをつくっていきたいということを申し上げてきました。

このコロナで密を避けるという流れがあり、やはり一極集中という、東京の今のオフィスの状況を見ても一目瞭然ですが、根本的に変わりつつあります。それは紛れもなく、つくば市が目指してきた方向性として、当然コロナは予想をしていませんでしたけれども、まちづくりとしても、そういった方向になっていくと。

ただ、そうやって小規模に地域にどんどん分散すればするほど、それこそ効率という面では非常に難しい議論になります。ですので、何が必要で何が変えていかなくてはいけないのかということを含めて、そういう設計思想のもとで今回の計画はもちろんつくられていますけれども、それを具体的に進めていくためには皆様の本当にお力が必要だと思っています。

大きく掲げている目標を、当然、これはもう全て実現をするということを目

指していくのが我々の仕事だと思っていますので、本当に率直に忌憚のない御意見をいただければと思います。私も毎回挨拶だけになってしまうと思いますけれども、皆様の御発言等は、これまでの策定の際にも確認させていただきましたけれども、今回も全て議事録を読んで、気になることがあれば私からも事務局にもフィードバックをしていきたいと思っています。活発な皆様の議論を私も楽しみにしていますので、ぜひどうぞよろしくお願いします。今日は本当にありがとうございます。

○事務局 五十嵐市長でございますが、この後、ほかの公務が重なっていますので、ここで退席させていただきます。

○市長 申し訳ありません。よろしくお願いします。

○事務局 それでは、座長、副座長におかれましては、お席の御移動をお願いいたします。

それでは、議事に入る前に、つくば市未来構想等推進会議設置要綱について、事務局から説明いたします。

○事務局 【基礎資料1及び2に基づき説明】

○事務局 それでは、議事に入りますが、ここからは、つくば市未来構想等推進会議設置要綱第4条第3項に基づき、座長に議長をお願いいたします。

○座長 よろしくお願いします。吉瀬です。

議事に入ります前に、本推進会議の公開について皆様にお諮りしたいと思ひ、会議の公開、非公開について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 会議資料の6ページ、7ページの参考資料1を御覧いただきたいと思いますが、つくば市におきましては、会議の公開につきまして、条例において定めをしています。

会議につきましては、原則公開となっておりまして、非公開とすることができる会議ということで、お手元の資料の8ページ、9ページのような形で、個人情報扱う会議につきましては例外という形になっているのですが、この会議におきましては、特段、個人情報扱う予定がないということで公開という形で進めさせていただければと考えています。

ただし、不開示情報を取り扱うことになった場合や、委員から非公開の申出があった場合は、その都度、審議の上、決定することができるという内容になっています。事務局からは以上でございます。

○座長 どうもありがとうございます。先ほど五十嵐市長からもお話がありましたとおり、今回の会議は、市政の方向性を示す上でも市の最上位計画ということで、この推進に関する審議を公開することは、広報にもなりますし、またこ

の運営の透明性の向上にも寄与できるものと思います。よって、この会議は、原則公開といたしたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○座長 ありがとうございます。それでは、本推進会議は、原則として公開いたします。

傍聴者の方がいらっしゃいましたら、引き続き会議を傍聴することができます。

それでは、議事に入りたいと思います。議事１、未来構想等の改定と概要について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 【未来構想・戦略プラン、概要版資料１－１から１－３に基づき説明】

○座長 ただいまの内容につきましては、御質問等ございますか。

ないようでしたら、議事の最後にも質問時間を設けますので、そのときでも結構です。続けます。

続きまして、議事２、つくば市未来構想等推進本部・推進会議の設置について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 【資料の10ページ、11ページ、資料２－１、２－２に基づき説明】

○座長 ありがとうございます。ただいまの内容について、御質問等はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ないようでしたら、次に進みたいと思います。

続きまして、議事３、令和３年度事業実施計画（案）の策定について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 【戦略プランの23ページ、資料３の冊子に基づき説明】

○座長 ただいまの内容について、御質問、御意見等いかがでしょうか。

非常に量の多い資料ですので、なかなか目を通していただくのも難しいかと思いますが、特に皆様の御関係の専門分野でお気づきの点がありましたら、お願いいたします。

○委員 全体的なもので、149ページなのですが、地域安全活動事業というところがありまして、細かい話になるのですが、その取組内容ということで、一番下の行に、LED防犯灯、防犯カメラの設置及び管理を行うということであります。

これについては、特別、将来の方針というのは、この記述の中ではちょっと確認できなかったのですが、五十嵐市長になって、防犯灯、かなり学園地区も整備されてきています。あとは、それに伴う中心の歩道なども、かなり以前と

違って整備いただいておりますが、防犯カメラなどを計画的につけていただいていると思うのですが、日頃ニュース等を見ると、やはり犯罪の抑止と、あと検挙の現場の証拠ということで、かなり重要性が今後増してくると思うので、これについても予算もあるでしょうけれども、整備していただければと思います。

あと、それに伴って、防災関係の防災無線ですね、それについても一部つけていただいているところもありますけれども、有事の際には、デジタルじゃなくてアナログ的なやつが効果を発しますので、それも併せて検討いただきたいと思います。ちょっと細かい話で申し訳ないですが、よろしく担当のほうにお願いしておいてください。

○座長 ありがとうございます。

○委員 今の件について、前から感じていたのですが、防犯カメラなのですが、これ、中心部だけではなくて、在（周辺部）のほうにもやはりつけていただければ、防犯の抑止力になっていいのではないかと。ほとんど見かけないですね。

あと、中心部でもかなりあるように、ほかのテレビなどいろいろ見ていて思うのですが、やたらめったらなくてもいいのですが、ある程度つけていただければ、よろしいかなと。

前から、これは本当に一度、そういったものを提言してみようかなと思っていたのですが、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

○座長 御意見ありがとうございます。

こちらの件について、事務局のほうからはございますか。

○事務局 こちらにつきましては、来年度の方針のところでは読めないところもあるかと思うのですが、この辺は担当課のほうにも確認をしまして、可能な限り記載をするとともに、今頂いた意見に対する個別の回答として、また後日お送りをさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○毛塚副市長 ありがとうございます。防犯灯につきましては、この5年間で大体1,000基を超える増設を行っています。ただ、防犯カメラにつきましては、まだなかなか進んでいないという課題もありまして、やはりプライバシーの問題とどう兼ね合いをつけていくのかというのが課題だと思っています。

例えば、人出の多い中心市街地とか、駅の周辺につけようと、その例えばバスターミナルの団体と協議なども行っているのですが、いかにプライバシーを守った上で設置していくのかというところで、まだ協議が続いているような状況になります。

中心市街地以外の場所につきましても、そういった地域の理解は不可欠だと思っているのですが、そういった協議を行いながら検討していければと思って

います。貴重な御指摘ありがとうございました。

○飯野副市長 少し補足なのですが、防犯カメラの場合はプライバシーの問題がいろいろ議論されるのですが、例えば個人のお宅でつけていただく、それに対して何らかの行政が支援をするとか、あるいはコンビニとか、そういうところは多分もうついていると思うのですが、そのほか例えば交差点などに防犯灯と一緒につけるとか、つけ方についてはいろいろ工夫すれば可能ではないかなと考えています。今はそういう考えから、積極的に市内の至るところに防犯カメラがあるように目指していきたいと考えています。

○座長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。ほかに御質問等ございますか。

○委員 この資料の冊子のほうを見たところ、個別の施策の話ではないのですが、指標の推移ですかね、このページごとの一番下のところにある指標の推移なのですが、これが、施策によっては目標値を実績のほうを上回っているというものが既にあったりします。一応数字としては、その目標値が変わらず、令和2年度、令和3年度、同じ数字が入っているというような施策が見受けられるのですが、こういった辺りの目標値の改定といいますか、そういったのはどのような手続で流れで進められるのか、お聞きします。

○座長 ありがとうございます。いかがでしょう。

○事務局 ただいま御指摘いただきました指標の推移なのですが、御指摘いただいたように、高い数字に向けて追いかけていっているものもあれば、場合によっては既に年によって超えてしまっていて、そのままになっている指標等も確かにございます。

こちらにつきましては、先ほど幹事会議と専門部会という形で、内部の会議で御説明させていただきましたが、そちらで一度チェックを行ったものとなっています。

こちらは、指標によっては、右肩上がりですべて上げていけるものについては、できるだけそういう設定をするということと、また指標によっては、なかなか上げていくのが難しいものもあるので、そういう場合は維持していくものとなっています。

ただ、上がっている状態につきましても、多少、年によって増減があるもの等もございますので、たまたま前年度よかったけれども、平均すると大体目標値の付近になるというところで、そういったものは複数年間をもって、平均を取って目標を定めているというような形になりますので、場合によっては、超えている年もありますが、目標値がその下になっているという場合もございます。そのため、全体的には、頂いた御意見のように、基本的には目標値が前年

の実績を上回るような形を目標として設定しているものではございます。変える場合の手続でございますが、こちらは毎年度見直していきますので、今回頂いた御意見ですとか、そういったものも含めて、この内部の先ほど説明しました専門部会と幹事会議、そしてこの推進会議で頂いた御意見を受けて、本部会議という形の流れで、毎年見直しをしていくという形の手続になります。

○委員 ありがとうございます。

○座長 ありがとうございます。ほかに御意見等ございますか。

お願いします。

○委員 246ページの雇用促進対策事業、これですけれども、将来、2035年ぐらいですかね、つくば市は緩やかな上昇で人口がピークになると。そして、現在言われていますように高齢化がどんどん進んで、それからあと、生産人口がどんどん少なくなってくるということで、これはやはり日本人の生産人口が少なくなるということで、これは外国からどんどん労働者の働く人を取り入れていかなければ駄目だということ。それから高齢化がどんどん進むけれども、そういった高齢者を生産人口に組み入れて、これからどんどんやっていかなければならないなと思っているのですが、その辺、市としましてはどのように考えているのか、その辺をお聞きできればありがたいなと思っています。

○毛塚副市長 御指摘ありがとうございます。地域を支えるような方々が、今後これからどんどん増えていくといいと思っているところです。

まず、外国人のポイントにつきましては、やはり日本語教育の充実というのでも受入れを進めていく中では非常に大切だと思っています。国際交流協会と一緒に、かつては、例えば研究でつくばに赴任する外国の方が多かったですが、やはりこれからは、例えば農業関係ですとか、あとは工業関係ですとか、様々な分野で外国の方が増えていきますので、そういった方々がその地域で根づけるように。もしくは、例えば機能実習で来ている場合でも生活を不便なくできるように、日本語教育の充実というのはしっかりやっていかなければいけないと思っています。

あともう一つ、高齢者の一つやっています取組といたしまして、OB人材の登録制度というものをやっています、様々な強みを持った高齢の方々がどんな強みがあるのかということでパンフレットを制作しています、その地域で何か新しい取組を、高齢者ではない方もやろうと思ったときに、こんな方がいますとつなげられるような仕組みを整え始めているところです。

それ以外に、先ほどの御指摘のように、実際働く現場で高齢の方がますます生き生きというところも本当に大事なポイントだと思っていますので、そういったものも、先ほどのどちらかというとOB人材の活用、市民活動のところの

ウェイトが大きいかと思っているのですが、実際の仕事というところでも、ぜひ高齢者の方々の力を引き出すような施策も考えていければと思っています。

○委員 それから、シルバー人材という高齢者が、60歳以上の方が働いているセンターがありますが、そういったところも今後どんどん活用していただければいいのではないかと思います。その辺いかがでしょうか。

○毛塚副市長 ありがとうございます。先日も、シルバー人材の方々に、新しい分野での連携についても議論していきましよう、ちょうど話を頂いたところでした。例えば、つくば市で、この未来構想がSDGsという持続可能な開発目標を基礎にしてつくっているのですが、そういった分野での連携についてもこれから議論を始めていこうとしていまして、本当にこれまで、例えばシルバー人材の活動というのはかなり限定的なところもあったと思うのですが、よりまちづくりという観点から幅広い連携も是非進めていければと思っています。

○座長 よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

○委員 先ほど御説明でありましたが、この推進会議というのは評価・検証ということが役割だと御説明いただきましたが、そういう意味では、先ほどからありますが、指標のところをどうつくっていくかというのが一番大切なことかと思っています。

恐らく皆様が先ほどおっしゃったのですが、その結果として、評価・検証というのは、どういうステップでこれから進めていくことなのでしょう。その辺り少しイメージがつかめないものですから、教えていただきたいと思いました。

○座長 いかがでしょうか。お願いします。

○事務局 今、御指摘ありましたので、少し順番が前後してしまっ、先に御説明させていただきます。次第がついている資料の一番後ろの14ページを御覧ください。こちらを、先に説明していれば、今のような疑問が発生しなかったので大変失礼いたしました。

資料4のほうでございますが、今後といたしましては、本日が、線が引いてある推進会議という形になります。こちらでは、今御覧いただいている次年度の実施計画について御確認いただくサイクルとなっています。

そちらが終わりまして、令和3年度になりましたら、今度は令和2年度の実施した事業に基づいて施策評価を行いますので、そちらの評価で、今御指摘いただいたような数値が達成できたかどうか、そして、できた場合はどういった点がよかったのか、できなかった場合にはどういった課題があるのか、そういった点を洗い出しまして、そちらは別のシートになるのですが、シートとして作成します。その内部評価が済みした後、外部評価として、この推進会議で

皆様に御覧いただきたいと考えています。

その際に、推進会議の全体会という形で、本日のような形で一度全体に御説明をしました後、その後、推進会議の専門部会という形で、それぞれ専門分野ごとに担当課を呼びまして、4回程度、意見交換をしていただきまして、それぞれの施策、先ほど申し上げた指標の達成状況ですとか予算の執行状況ですとか、そういった内容について御確認・御議論をいただきたいと考えています。

それが終わりました、最終的には、市長を本部長とする本部会議において評価を確定するというものが1年のサイクルとなりまして、また令和3年度の4月以降につきましては、今回と同じように、次は令和4年度という流れになっております。今回は、前年度の評価というものが御覧いただいていない状態で次年度どうするかというところを見ていただいていますので、見るポイントがわかりづらいことは重々承知していますが、次年度以降につきましては、評価をしていただいて、それをもって次年度の計画を見ていただくという流れで考えています。

○座長 ありがとうございます。それから、委員のほうから先ほど質問あったかと、よろしくお願いします。

○委員 まず、全体の話なのですが、この実施計画、先ほど市長の挨拶の中で、コロナ禍については当然、未来構想あるいは戦略プランの策定時には想定もされなかったし、またコロナ禍にあっても目標はぶれずに推進していくというお話がありましたので、その点は理解しているところですが、戦略プランについては、向こう3年間という、かなり地に足のついた実施計画となっています。そうした中で、コロナ問題というのはどうしても避けて通れない部分があるのではないかと。それを、全体として全く外して、このプランが策定されているのか、それでしたら、多分、実施目標に対しての実績値が下振れする可能性はあるのではないかと。それはどうやって評価すればよろしいかとは思いますが、その辺の基本的な考え方を伺いたいと思います。

もう一つ、当然、戦略プランですので、できるだけ数値目標を持って、どこかにつないでいくのが理想的だと思います。中には、数値目標の立てられないものもあるというお話は伺っていますが、できる限りということで、少し気になったのが、実績がない、数字がない中で目標が定められている計画が幾つか、散見されています。やはり実績があって、それを前提とした目標が立てられるべきなのかと。実績がないと、その目標が果たして適正なのかどうかという判断がしにくいのではないかと。

それと最後に、実績値があるにもかかわらず、目標のない事業があるかと思っています。その辺は何らかの理由があるのかと思うのですが、その辺についてお伺いできればと思います。以上3点でございます。

○事務局 頂いた順番でお答えさせていただきますと、施策の指標と、あとはコロナの関係という形でございますが、市長からも話がありましたとおり、一旦は、コロナがなかったとしてもやっていた事業という形で、影響を考えない状態で指標等は立てているものとなっています。

これにつきましては、いろいろな考え方があるということは承知しているのですが、まだはっきりとどの程度影響が出るのかというところで、安易に指標を下げるということをよしとしないというところで、現段階では、指標等、目標値は下げずに当初の予定どおりとしています。評価の段階で、1年間終わって影響等も確定した段階の評価の際に、ここはコロナの関係でイベントができなかったので下がったところ、ここはコロナと関係なく下がったところということで、分析の段階で、下がっても仕方がないところと下がってはいけなかったところというところをきちんとお示しした上で、評価をしたいと考えています。

二つ目の指標について、実績がないけれども目標を立てているものがございまして、こちらにつきましては、今回初めて作った指標もあり、そういったものにつきましては、前年の実績がない状態で目標を立てているというものになります。こちらは、1年間回して、実際に今年度の実績が出た段階で、また目標値等も適切に修正をしていきたいと考えています。

そして、三つ目の実績があるけれども目標値がないもの、こちらは本当に委員からお話がありましたとおり、なかなか目標が定められないもの、多ければいいとも言えないもの、例えば消防の救急指令とか、そういったものにつきましては、多ければいいとも、もしくは低いほうがいいとも言えないというものにつきましては、目標値がないので、実績だけを示しているというような形になります。

○座長 よろしいでしょうか。

○委員 ありがとうございます。この辺につきましては、そういう方向で見させていただければよろしいのかと、承知いたしました。ありがとうございます。

○委員 今、委員からもありまして、コロナに対しての対応は伺ったのですが、ただ、この戦略プランを進めるに当たって、構想の策定のときにも主張させていただいたのですが、やはりお金の問題というのは切っても切れないことで、もちろん指標に向かって努力していく中で財源というのは大きく関わってくると思います。

コロナの影響を見てというお話ですけれども、既に、今度11月には次年度の予算要求が始まって、確実につくば市の収入の多くを占める市税収入が減少することはもう分かっていることですので、それを、内部の評価が終わって外部

評価にかけてくるのが令和3年の4、5月ということだと、時遅しなのかと。

そこからどのように修正するのかということは、やはり私たち評価をするに当たって、知っておくべきかと思えますし、コロナの影響を見てということが、令和3年度始まってからとなりますと、ではそれを見て、どのように修正していくのかというところの少しロードマップを知らしていただけないかと。もし、それを考えていないということであると、それはまずいのではないかと思っていますが、いかがでしょうか。

○事務局 先ほど、指標につきましてはコロナの影響は一旦考慮せずと申し上げたのですが、予算等につきましては、コロナの影響等もある程度考慮した上で立てているものとなっています。

現時点では、予算要求前の金額という形になっていますので、一旦これに基づいて要求をしまして、実際は査定が入りますので、査定が終わった段階で、こちらの金額等につきましては、また修正といいますか、変更があるものにつきましては変更を行いまして、予算の内示と同じ時期に、この実施計画書を公表したいと考えています。

ですので、予算につきましては、そのような流れで、ある程度考慮をした形にはなっていますが、最終的には予算の内示とともに再度お示しするというような形になります。

○座長 委員、いかがでしょうか。予算についてということで、今のところは。委員、どうぞお願いします。

○委員 今の話につながる部分もあるのかと思うのですが、全体的に見て、既存の中小事業者の目線での施策が少ないのかと感じております。もちろんここに書かれているもの以外に既存の施策もあるということは、冒頭のお話で理解はしましたが、つくば市の統計は持たないのですが、茨城県で見ると、中小事業者の約9割、8割強の事業者が、今回のコロナによってマイナスの影響を受けている、又は今後出るというような調査結果が出ています。今お話の中では、コロナの影響によって数値が下振れするという話が出ていますけれども、ぜひ、その数値が下振れしないような、コロナによって新しいライフスタイルを構築しようと政府のほうは言っていますので、間違いなくそういう部分が変わってくる、消費者の購買動向も変わっていますので、それに対応するような施策をぜひ打っていただいて、できれば事業者の数字が下がらないような、先取りしていただけるような施策があるといいかと思いました。

見ると、唯一、商工業振興事業という中で空き店舗対策というのがあったかと思いますが、65ページですか、ほかにもあるのかもしれませんが、ぜひ、このページを深掘りしていただいて、新しい消費者購買動向に対応するとか、ライフスタイルの変化に対応するとか、デジタル化とか、そういう言葉を織り

込んでいただいて、もちろん政策としても、そういう施策を打っていただけると助かるかと思います。結構廃業している事業者の方も出始めていますので、お願いしたいと思います。以上です。

- 毛塚副市長 御指摘ありがとうございます。確かに、この中に産業戦略の各論のところは載っていない状況なのですが、戦略プランに載っている事業を抽出して、ここで予算を取るものとして載せている状況になります。

産業戦略というものが、戦略プランの下に紐づいておりまして、そちらで経済分野については各論の政策を設けていて、現在ちょうどパブリックコメントが始まったところです。

御指摘いただいたようなコロナを踏まえて、例えば今まで対面で商談を行っていた方がオンラインでないと商談できなくなっていることであったり、もしくは、これでなかなか職場に集まらないというときに、いかにそれを省力化していくのかというデジタル化だったりなど、まさに今、ピンチでもありチャンスでもあるというタイミングだと思っています。

そういった中で、ちょうど現在策定中の産業戦略には、その2点については新しい施策として盛り込んでいまして、実は、オンラインでの営業ですとか営業の新しい開拓というのは、既に補助金を用意しまして、もう既に募集も開始しているところです。

やはりつくばでも、少しずつ休業、廃業になってしまいうところが出てしまっていて、御指摘のような本当に下振れさせないというような思いは本当に大事だと思いますので、しっかり取組んでいきたいと思います。

- 委員 274ページのリサイクル推進事業、今話題になっていますコロナで、世界を席卷していますけれども、それに伴って、また温暖化、これも地球を滅亡させるものだとして世界で騒がれているわけです。ごみ問題なのですが、私、SDGsで今活動しているのですが、例えばプラスチック、これは大変な問題ですよ。あとは、食品のロスですか、そういったものをリサイクルできれば一番いいかと思っています。

それで、プラスチックは、スターバックスは、プラスチックから紙に飲み物のカップを替えるとか、いろいろ対策を練っているような状況ですけれども、やはりこのごみ問題は、今後温暖化ですけれども、CO₂削減、これは非常に重要な問題です。これもひとつ施策の一環として、この市政に取り入れていただければありがたいと思っています。これも重要な問題ですから、これも何はともあれ、ひとつよろしくお願いしたいなと思います。

- 座長 ぜひ、どなたか、お答えいただけるとありがたいです。飯野副市長お願いします。

○飯野副市長 プラスチックごみですけれども、今朝も多分プラスチックごみの収集の区域があったと思うのですが、当初想定よりも大分量が多くて、月2回ではとてもじゃないけれども困るというようなお話が出るほど、想定以上のプラスチックごみが出ています。量的にも多分多いのだろうけれども、多分市民の皆様の関心も高い。今おっしゃいましたように、これはきちんと環境のためにも取組まなくちゃいけないという意識の高さの表れではないかと思っています。したがって、すぐに収集日を増やすということも難しいので、順次、もっと回収できるような形で検討しているところでございます。

それから、フードロス、食品の問題ですが、これも市長のほうの考え方が公約の中にもあったと思うのですが、何とかして食品のロスを少なくしていこうということで、まずは学校給食の残渣、残り、これを少なくすると同時に、残ったもの、現在はクリーンセンターのほうに持って行って焼却処分をしているわけですが、そうではなくて、再利用して、例えば家畜の飼料にすることとか、そういうことを検討しています。

ただ、給食だけでは量も少ないので、これを全市的に、事業者、飲食店、そういったところも含めた全体的な取組として事業化していく必要があるだろうということで、市直営というよりは、民間事業者と連携して取組んでいこうということで検討しているところです。

ただ、なかなか臭いが出たり、いろいろな問題があったりしますので、その場所の選定とか、あるいは設備、まだそんなに普及していないので、その設備をどんな設備を導入したらいいとか、いろいろ今検討しているところですが、近々具体的なプランといいますか、計画をまとめていきたいと考えているところです。

○座長 よろしいでしょうか。続いてどうぞ、お願いします。

○委員 食品ロスの件でございますけれども、市の賀詞交歓におきまして、例年非常にパーティーの席上でロスに対する市の考え方というのが表れていたと思います。

私は、これまでも賀詞交歓に参加いたしまして、パーティーが終わった後、食べ物がたくさん残っているのをずっと見てまいりました。しかし、市が率先して賀詞交歓のときに残らないような計画をされていたのを見まして、さすがだなと思いました。市民に呼びかけるというのもとても大事ですが、そういう姿勢といいますか、掲げた市がやってらっしゃるということに私はいささかの驚きを感じたのですが、とてもすばらしい取組をしているということを感じましたので、こういったことを残していただけたらと思います。

○座長 どうもありがとうございます。コメントということで承りました。

委員、どうぞ。

○委員 ページでいうと、227を見ていただきたいのですが、これは要望に近いかと思うのですが、今コロナの影響では目標を変えていないという話はありませんが、実際問題として、2歳以下の子供はマスクをつけられないのです。そうすると、人が集まるような場所に呼ばれてもなかなか行けないですし、これから寒い時期になってきて室内で遊びたいと思っても、今は、まだそういったところが再開していなかったり連れていくことができなかったりということと、かなり体験の質が変わっているというのが現状です。

そういった中で、それが未来にどう影響するのかといいますと、2016年のアメリカの研究で、7,000人ぐらいを対象にした研究があるのですが、3歳以下の教育、体験の質というのが、実際、中高年になったときのサイエンス、いわゆるSTEM教育に関わってくる分野の一番大きな差ができる要因になっていると。その差ができると、結局将来の選択肢の差につながっていくということで、アメリカなどでは、今3歳以下のSTEM教育や、非認知能力の向上というのにすごく力を入れているところです。

今、外でなかなかそういうことができない、自分で連れていったりできないということになってきますと、保育園だったり、開いている場だったり、あとは親への教育というのがすごく大事になってくると思います。今こちらの目標値ですと16人の先生に1年の年度の中で研修を行うということなのですが、できれば、それがもっと親にも伝わるような内容にしていきたいということと、その目標値自体も上げていきたいと思っています。この3年のことが、すごく将来に影響を与えていくということを知っていただきたいと思います。

そういう意味では、「質の高い教育をみんなに」とSDGs 17のゴールが書かれていますけれども、これは結局、もう一つ目標として「人や国の不平等をなくそう」にもつながってくると思います。

家庭教育に任せずに、アメリカとかはチルドレンズ・ミュージアムとかを造って、公共の施策としてSTEM教育をゼロ歳から始めているのですが、なぜそれをしているかといいますと、おもちゃ売場へ行かれると分かると思うのですが、女の子向けのおもちゃとか男の子向けのおもちゃというふうに分かれていて、女の子が例えばブロックはあまり使わないとか、女の子はキッチン道具がいいみたいな売場のつくり方がいまだにされています。親は、自然にそこに行くとなんかそういうものを買ってしまうのですが、そういったところの教育からやはり変えていかないといけないという意味で、この概要の取組のところでも、STEM教育をぜひ入れていただいて、ゴールの中にも、不平等をなくそうというのもぜひ入れていただきたいなと思いました。

あと、もう一つ、国際交流のところで日本語教育の話があったと思うのです

が、私、海外のいろいろな国で生活をしていまして、実際自分が外国人として住んでいた身からしまして、一番いい取組だなと感じたのがドイツなのなのですが、そこが、ドイツを教えるプログラムをつくる時に、言葉を教える、その進捗を早めるというのではなく、1日のプログラムの中で友達をつくるということを目指してプログラム設定をされていることがありまして、それがすごくいいと思ったのは、言葉が話せないうちから友達ができますと、その友達が実際は通訳をしてくれたり、保健所につなげてくれたり、役所につなげてくれたりということがあって、結局地域になじみたいということであれば、言葉というのは、本来はなくても、もしかしたらなじむことはできるかもしれないけれども、その最初のステップは友達がつくるというのを、プログラムのこの短い文章の中に入れるのはすごく難しいと思うのですが、せっかくの機会だったのでお伝えさせていただきました。

○座長 ありがとうございます。

○毛塚副市長 ありがとうございます。マネジメントシート、例えばさっきの幼稚園の教諭の数ですとか、あとSDGsのゴールの話など、できる限り反映できることは、こちらに反映できるように内部で相談したいと思います。ありがとうございます。

本当に御指摘のように、幼稚園だけでも駄目なのだろうなということを思っていてまして、コロナの時期に、一時期、子育て支援センターを閉じさせていただいたのですが、できる限りそういうところも開けていきながら、一つの例なのですが、やはり小さいうちからしっかり遊んで非認知能力を高めていくという機会を、幼稚園とか保育所自体もしっかり充実していければと思いますし、あとコロナということもあって、屋外という中で、プレイパークというものを、今、桜でオープンしたところなのですが、そういった自然の中で自由に遊べるようなところもしっかりつくってきたいなということを思っています。

国際交流のほうにつきましても、現在、国際交流協会とやっておることなのですが、日本語教室をやる一方で、世界お茶飲み話という取組をやっていて、各国の代表の方が、その日のトピックとかも話していただきながら、そっちは日本語教室よりカジュアルな異文化交流のほうなのですが、そういうのを組み合わせて事業をやっていただいています、そうしながら、単にクラス方式での勉強だけではなくて、一緒に仲よくなっていけるというのはやはり大切だなと、お話伺いながら改めて思っていたところです。

○委員 幼児教育といいますか、教育という枠組みではなくても、小さい子供たちが言葉を習得していく過程において、言葉というのは、教えるものではなくて自然に覚えていくという前提があると思います。

赤ちゃんが、最初のああという喃語を、第一声を発するまでに、母親は5,000

回言葉をかけているというデータがございます。ですから、赤ちゃんは分からないから言葉をお母さんがかけない、ミルクを飲ませて、おむつを替えたときでも、何らかの言葉をかけながら耳からキャッチしていくというのが、人間の言葉の最初の習得の仕方ということですね。ですから、そういうことを考えますと、分からないから言葉をかけないお母さんのお子さんというのは、言葉の発達が非常に遅いということが言われています。

そういった中で、つくばの場合は、国際交流のほうでは、幼児の日本語教育というのはしておりません。ただ、帰国のお母さん方が多いものですから、私も、パークデビューというのか、公園デビュー、帰国したお母さん方が、住んでいた国で子供がその言語を学んできて、でも、つくばに帰ってきたらそういうところがないと、継続してできないことがないということをよく伺いました。それで、そういうお母さんたちがグループをつくって、帰国しても、その言葉を学べるようなところが欲しいという話は聞いておりました。

ただ、私どもがやっているのは、あくまでも小中対象、それから大人対象でございます。確かに、そういった中では、つくばでは、そういったお母さん方のコミュニティーも必要かとも感じています。

私も海外は長かったのですが、大人が外国に住んだときに一番困難なのは、やはり言葉です。そういったときにヘルプしてくださる方、私もドイツだったのですが、現地で出会う最初の言葉というのは、もう新聞もラジオもみんな、テレビも、日本の飛行場をたって着いたところは、目の前にある食べ物も景色も全部違う様子にぶつかるわけです。そういうときに、やはり言葉というのは、コミュニケーションの最たるものですので、早くそういう幼児教育からできるということは大事だと思います。

しかも、日本に帰ってきたら、子供たちが言葉を忘れてしまうということも聞きます。そこで苦労して、今インターナショナルスクールもございますし、それからランゲージスクールも二、三あると思いますので、そういった中で、小さいお子さんたちの言葉の教育というのは続けていかなければいけないと思います。

今お話しいただきましたように、幼児教育の幼児言葉も確かに大事かと思えますので、今のところ取組はございませんけれども、それを課題にしまして、今後、私どももできるようなことがありましたら、プログラムを立てていければなとは思っています。

○座長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。委員、どうぞ。

○委員 また、度々、評価についてになってしまって恐縮なのですが、これ評価する際に、何か実績のような実績表といいますか、報告書みたいなものが作成されるのかどうか。また、もし作成いただけたら、先ほどもコロナの説

明もありましたけれども、外部環境と、あとはプロセスと、それに対して結果の数値がどうであったかというのが、分かりやすくまとめていただけると評価する側もしやすいのかと。

あとは、やはり数値がないところ、どう評価するかというのがありますが、それは各プロセスで評価するしかないと思いますので、それもいただければ多分助かると思います。

○座長 今後のスケジュールのほうを、併せて説明していただいたほうが分かりやすいですか。

○事務局 今御指摘いただきましたように、評価の際には、今御覧いただいているものが事業の実施計画であり、こちらはどのようなやり方をするかという書類になります。評価の際は、別に評価シートというものを作りまして、評価の結果というものを、今御指摘いただいたような内容を記載したものとして御用意したいと考えています。

もう一つ、この事業より一つ上の施策のものとしまして評価を行いますので、その際には、事業の段階ではどうしても目標が立てられないものというのがありますが、それにつきましては、きちんと全ての施策に指標を設けていますので、そちらできちんと分析して御覧いただきたいと考えています。

○座長 ありがとうございます。よろしければ、恐らく今の御質問とも関係するのですが、今後この委員会がどのように進んでいくかということを説明していただく必要があるかと思いますので、次の議題、今後のスケジュールについて、改めて詳しく御説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局 次第がついてあります資料の最後のページ、14ページを御覧いただければと思います。

こちらは、先ほど御説明いたしましたので、それをなぞるような形になるのですが、今回が令和2年度の10月という形で、次年度の事業をどういう形でやるかという実施計画を御覧いただいた会議となっています。

年度末が終わりまして、全ての事業、施策等が終わりまして指標が確定した段階で、今度は施策評価を、まずは内部で行いまして、その後、外部に評価をしていただくために、この推進会議を開催させていただきます。

その際には、一度全体会でお集まりいただきまして、その後、部会ごとに分かれまして、それぞれ担当課も呼びまして報告をして、それについて細かくそれぞれの施策について御覧いただくという形になります。その内容を受けまして、最終的に、市長を本部長とする本部会議で報告をしまして、評価が確定するという流れになります。

8月以降につきましては、今度は令和4年度以降の計画について御確認いた

だくという内容になっています。

また、評価の際には、先ほども御指摘がございましたが、別の、計画段階のものだけではなく、実際に数値が出そろって、それをきちんと分析したもの、別途資料を御用意して御説明する予定です。

また、今年度の残りの会議についてでございますが、これまで年2回という形で御案内しているかと思いますが、今年度につきましては、計画の修正等が行われる可能性も含めて2回とお伝えしていたのですが、現時点では、計画の修正等は予定しておりませんので、今回の会議におきまして今年度の会議は今回のみとなりまして、次の会議につきましては、年度が明けてから、今年度の実績等が出そろった段階で評価をしていただく際に、次の開催という形になります。資料4につきましては、以上でございます。

○座長 どうもありがとうございました。今のスケジュールについては、いかがでしょうか。どうぞ、委員お願いいたします。

○委員 今のお話に関連して、今日委嘱状を頂いたのですが、これが来年の3月までで、私どもは一体どのぐらいの期間をこれに付き合うのかというのがよく分からないままにやっていて、私もこういう会議に参加するのが初めてなので、どういうスタンスで何を言えばいいのかよく分からない状態です。

その辺は、保障できない何かいろいろな事情があるのかと思うのですが、取りあえず、この5年間のプランに全部付き合うことになることが想定されているのか、何かそういう説明も受けたような気もするのですが、少しそこを確認させてください。

○座長 それについては、どうですか。事務局の方から御説明いただいたほうがありがたいと思いますが、よろしくをお願いします。

○事務局 皆様委員の方につきましては、委嘱状の期間、来年度の3月31日までということで委嘱期間をお願いしていますので、実際このスケジュールからいいますと、令和3年度の第2回の推進会議までが、一旦のお願いの内容ということで考えています。

○委員 ということは、今日だけということですか。

○事務局 令和3年度の来年度いっぱいまでは、進行管理を行っていただきたいということで考えています。

○委員 委嘱状は来年の3月までですよ。ただ、あと1年は前提であると。

○事務局 予算が年度単位ということで、一旦、年度で切らせていただいているのですが、来年度もお願いしたいと考えています。

○委員 分かりました。

○座長 よろしいでしょうか。続けて、最後の議事、その他のほうに移らせていただきますけれども、今までの話の中で御質問等ありましたら、特にまだ御意見をいただいております委員の方、ぜひ。委員、どうぞよろしくお願いします。

○委員 この場で申し上げることかどうか分からないのですが、先ほど一番はじめに、市長が、実施計画を作るに当たって、いろいろと精査して、事業として記載されていないと事業化されないというようなお話があったところで、もう既になくなっている話なのかもしれませんが、先ほどいろいろ皆様のお話を伺っていて、それぞれの御関心からこの市政をどうしたらいいかということの御意見があったので、少し私も思うことがあって、1点だけ発言させていただきます。つくば市の図書館というものができて40年くらいになっていて、大分のところ古臭くなっているというか、施設も小さいですから、あまりきちんとつくられていない、サービスが展開できていないということがあって、もう一点、土浦市の駅にできた図書館を御存じだと思います。もし、行かれていない方がいたら、一度ぜひ行かれるといいと思うのですが、非常に大きな図書館があって、あそこは、施設として一定の規模があるだけではなくて、蔵書が非常にいいと私は考えています。一般的な公共図書館の蔵書と少し違うタイプの蔵書で、我々研究者にとっても非常にありがたいものがあります。

そういうものを作ってほしいという話ではないのですが、西武デパートの跡地に図書館を入れる、入れないという話が、一時期あったと思うのですが、そういう図書館が大事だというよりは、私はネット時代に、市民がというか、住民が自分の考えをきちんと展開するためには、図書館的な施設がぜひ必要だと思っています。

ネット社会が進行すればするほど、こういうある程度確実な情報というものをどう使っていくかということが大事だと思うので、そういうことが一時話題にもなったこともあるので、どこか次のプランなり何なりにそういうものが入る可能性があるのかどうかということ、つまりこの場でそういうような意見を出すことが何かの効果をもたらすのかどうかということについてお伺いして、参考意見としてお聞きいただければと思います。

○座長 ありがとうございます。

○毛塚副市長 ありがとうございます。この会議で使っていたのは、この事業の実施計画書ではあるものの、ここにとどまらない話も、この会議が市の最上位計画を扱う会議ですので、ぜひいただければと思っております、この本文に載っていない例えば図書館のようなものについても、ぜひ御意見を今後もいただければと思います。

図書館につきましては、今後の図書館を考えていく上での市民との懇話会と

いうものを昨年度まで行っていました。そこで提言書を最終的に取りまとめていただいて、市民の皆様から、今後の図書館について提言を頂いたところです。

つくば市の図書館ができてから大分時間もたっていますし、なかなか人口規模に対して小規模という課題も認識している中なのですが、その提言書の中でも、まさにそういった問題意識を踏まえて、図書館の今後の新しい建設も含めて考慮すべきというふうな御提言を頂きました。

今回のこの構想は、この期間内でまだ新しい図書館をつくるというところまでは踏み込めていないのですが、今後新しい図書館をつくっていくというときに、どういう在り方であれば現実的なのかというところから、今後を考えていきたいと考えています。

○座長 よろしいでしょうか。

○委員 ありがとうございます。

○座長 委員、お願いします。

○委員 少し進め方が分からなかったので、どれだけ細かいことを言ってもいいのかと思いながら様子を見ていたのですが、今回1回だけじゃないということで安心しました。

実は一つだけ言いたいと思っているのは、最近SDGs推しですずっとやっていらっしゃるのですが、それで既存事業と被ってしまうところがないのかということが心配で、例えば環境サポーターズという事業がありますが、それとSDGsサポーターズが被っているような感じで、今はすごいSDGsを推されているのですが、その前は環境モデル都市を非常に推されていました。その環境都市の中には、今SDGsの中に入っているような先端産業とか、あと再生エネルギーとか、モビリティとか、そういうもの全般が入っていたのですが、市民の目線からすると、その違いが分からない。どう違うのかというところで、今SDGsに入りにくいところもかなりあると思います。実際、事業が被っているものがあるのではないかなというふうな感じも受けています。その辺をどうやって市民に説明していくのか、あと、実際にきちんとすみ分けができているのか、被りはないのかということをお聞きしたいと思います。

○政策イノベーション部長 おっしゃるとおりでして、SDGsの中で、環境という分野が使われていますので、SDGsの考え方の中に今まで取組んできたような環境サポーターズのような方々というのは入ってきます。

一方で、SDGsは、環境のみにとどまらず、例えば子供の貧困だとか教育のことだとか、あるいは、まちの持続的な発展、経済的な意味での活性化、そういったものを幅広く扱っているのがSDGsになっています。そのため、我々としましては、環境も独自で推進すべきだと思いますし、それ以外の分野も

幅広く扱えるSDGsというものを、今回戦略の柱として据えているということです。

一方で、市民の方々へのSDGsを我々として推進している意義ですとか、基本的な考え方、それは引き続き発信していくことが必要だと思っております、今取り組んでいることとしては、SDGsパートナーズという枠組みを使って、市民の方々にいろいろな講座を受けていただいたり、あるいは、講座を一方的に受けていただいたりするだけではなくて、市民の方々が集まって、身近な地域課題について話し合っ、まず課題を特定して、それをどういう手法で、役所とそれから自分たちで解決していけるのかという、例えばSDGsTRYと我々は呼んでいるのですが、そういったワークショップを定期的に行っておりまして、来年度もそれを実施していきたいと考えています。

そのため、そういった草の根的な活動、それから行政として掲げる、先ほどのフードロスもそうなのですが、その取組、そういった両面の取組で、市民の方々にSDGs推進の意義を地道に、着実に伝えていきたいと思っています。

○座長 よろしいですか。

○委員 今、SDGsの件について話が出ましたものですから、私、TRYで活動しているわけですが、先ほど、ごみ問題について話しましたが、その一環として、段ボールを肥料にするといった活動もやっていますから、一つ皆様、段ボールを肥料にしたいのだけれども分からないという方がいれば、誰でも結構ですので、言っていただければ、その方法を御指導しますので、ひとつよろしく願いいたします。

○座長 どうもありがとうございます。

○委員 先ほど委員のほうからお話があったので、その次と思っていましたら話が飛んでしまったのですが、実は、図書館もさることながら、私は、こちらに住み続けて三十数年たつのですが、歴史博物館なるものは、つくばにないのですね。

土浦に行きますと本当に羨ましいのですが、まちづくりの中で西洋を見ますと、図書館と教会からまちづくりが始まったというのは、歴史的に表現されていることです。それに伴いまして、つくば市は、古くて新しいまち、新しくて古いまち、歴史のあるものがたくさん詰まっていると思います。小田城はああいうような掘り起こしたのがありますけれど、それでも、資料としてはまだまだだと。それから、谷田部のほうにあります資料館のほうも、何かタコ足状態に文化財になっているのではないかと感じをずっと持っていました。

そのため、ぜひ図書館や歴史博物館なるものは、市のステータスの代表的なものだと思うので、私たちは、過去の歴史を次世代につないでいくという点で

は、大きな役割があるのではないかと思います。すぐとは申しませんが、この文化財の方もいろいろ発掘されたりして、私の住まいの近くにも道路ができましたときに発掘されましたけれど、ぜひ長期にわたりまして、こういう計画は立てるといことだと思しますので、その計画のほうをぜひと思います。

特に、新しい方たちがつくばに住むようになりまして、新しい方がつくばの歴史を知る、そういうこともとても大事ではないかと思いますね。そういうことを御提言させていただきたい。

以前、私は、つくば市第3次総合計画の審議会委員をやっており、その話もさせていただいたことがあるのですが、私は万葉の研究をしていますので、特にそういったことも多分にあります。朝な夕なに筑波山を見ているつくば市民が、万葉集の中の歴史の古さ、それから遺跡もございますので、そういったものを含めまして、つくば市の財産だと私は思っているわけです。そういったものができるといいなと。

長期計画でもいいですが、何かばらばらになっているものを一つに統一できるようなものができるといいなと思っています。

○座長 どうぞ、お願いします。

○毛塚副市長 ありがとうございます。まとまった資料館が存在しないというのは、やはり市としても課題と感じていまして、実は4年前の市長の公約にもそういった郷土の資料館をつくるということが設けられておりまして、その構想に基づいて検討を進めているところであります。

そういった中で、今どこの場所がいいだろうかということを、文化財課中心に考えているところでありまして、例えば廃校だったり、もしくは例えば庁舎の跡地だったり、そういうものも検討しながら、どういうものが理想的かというのを考えているところです。

ステップとしまして、まず保存を進めなければいけないですし、さらにそれを展示という段階に進んでいくかと思うのですが、まずは、今いろいろなところに分散させて保存しているのですが、空いている庁舎などに一時的にまずはしっかりストックするということをやっています。しかし、それだけだと市民がなかなか見られる場になりませんので、市民がしっかり見られる場の整備というのを、今後継続的に進めていきたいと思っています。

○座長 ほかには御意見。委員、お願いします。

○委員 事業の計画の段階ですので、内容はなかなかだとは思いますが、やはり今、行政窓口のデジタル化というのを進めるということになっていきますので、書かない・待たない・行かないという、そういうことも、とても市民にとっては期待するところだと思いますが、その前にやはりマイナンバーカードを

普及させるとか、それからそういったことを進めていく上でのプライバシーのセキュリティーというのが非常に問題になると思うので、その辺りをどのように進めていくか、そういった評価というの、こういうところでもできるのかどうかを伺いたいです。

あと、それと全く逆になるのですが、本当に人が接客する上で、ワンストップサービスという、高齢者が来て、例えば身内の者が亡くなったときに、その手続を、どこにも動かないで、そこにいて、どんどん行政側が代わって説明をするというようなワンストップを、ぜひ、今も進めていращやるのかかもしれませんけれども、しっかり進めていただきたいと思います。セキュリティーのことは、非常に問題であると思います。

○政策イノベーション部長 最初の御質問、行政、例えばデジタル窓口、これを今どう進めようとしているのかということと、セキュリティーについての考え方、マイナンバーの話を私のほうからさせていただきます。デジタル窓口については、コロナになる前から、そういったことは必要だということで少しずつ検討は進めてきておりました。ほかの自治体で進んでいるところもたくさんあります。

今回コロナになっても、やっぱり転入転出の方の手続で、4月にもたくさんの方が来庁されていращやって、あとはこの混雑をどういう形で緩和するかということで、やはり一つの方策としてデジタル化というのは非常に有用だと考えておまして、市のほうでも来年度以降、今年度の終わりぐらいから、そういったデジタル手続が一部でも開始できるようにしていきたいと考えています。

そのときに、マイナンバーカードの活用というのは一つ大きなツールになるわけなのですが、今、国のほうのマイナポイントの付与などを始めたこととか、あとは臨時給付金でマイナンバーカードを使った申請ができたということもあって、もともと低かったマイナンバーカードの普及率が今徐々に上がっており、市のマイナンバーカードの発行の受付も、今は、実はパンク状態といえますか、たくさんの方がいращやっているような状況です。

それと同時に、それでもなお、なかなかマイナンバーカードの申請まで至らない方に対してどうやって普及させていくかということも併せて、今、方策を検討しているところですので、マイナンバーカードの普及とデジタル窓口の推進、両方をやっていきたいと思っています。

そのときに、セキュリティーの担保は当然なされるべきですし、セキュリティーと、それから個人情報、それからプライバシー、こうした問題については、もちろん確保された上でのサービス提供が大前提となると思っていますので、御案内の方もいращやると思うのですが、市は去年の10月に策定しています

スマートシティ倫理原則、ここでも個人の選択がちゃんと確保されるだとか、プライバシーについても配慮されるだとか、そういったことを掲げていますので、しっかりそれが実行された上でデジタル化を推進していくということを考えています。

○毛塚副市長 ワンストップの窓口の話につきまして、これについては結構、近隣自治体とかでも少しずつ導入が始まっていて、今はまだ研究を始めたというような段階です。もちろん今までの業務の量とかも変えなくちゃいけないものとなりますので、まずはしっかり研究させていただいて検討していきたいと思います。

○座長 御発言いただいている委員からは、いかがでしょうか。

○委員 評価の方ということですが、先ほど金融団の方からのお話でもありました、中小企業者向けの施策のほうも今後どういうふうな形でなっていくのかというのも拝見させていただきながら、御意見のほうも述べさせていただければと思っています。簡単ですけども、以上です。

○座長 委員は、いかがでございましょうか。

○委員 本当に皆様、各委員の先生方のいろいろ御意見を伺いまして、さすがつくば市だなということで、皆様大変高い学識と御見識をお持ちで、それぞれ行政に対する様々な御意見を提言されているので、本当に圧倒されるような思いで聞いてまいりました。

私どものほうからいうと、このつくば市の未来構想ということで、実は県内の44の市町村のうちで、こうした形で未来構想を描ける市町村って実はあまり多くありません。正直言って、茨城県の大方の市町村では、これから人口も減ってきますし、当面する課題に対応する、もう急迫する事態に対応するというのに手いっぱい自治体が多いと。

そうした中で、つくば市は、これから様々な、今御提言ございましたけれども、いろいろな構想あるいは御意見をこの市のまちづくりに生かせるって、本当に恵まれた市なのではないかと、各委員のお話を聞きながら思いました。

また、今回こういった形で数値目標を盛込んだ、実は、特に役所は単年度の事業を、常に予算は単年度でございまして、こういう長期の中で数値目標を盛込んだというのは、本当に役所としての意識の高さということで、これについては本当に敬服している次第です。

ただ、どうしてもこの数値目標を掲げると、その達成というのになってしまいますけれども、今日、各委員の方々、民間の企業の方の代表もおいでになっていますが、役所ともすると、この数字の紹介になってしまいがちで、基本的には予算ではなくて、民間企業の場合、決算というか、その効果、要するに

実績、こういった効果をもたらしたかというのがポイントに民間企業はやっています。つくばは大変民間企業は多ございますし、そういった民間の感覚、結果としてこういった効果をもたらしたかと、そういったところに気を遣った行政シートあるいは内部の点検というのををしていただければ、よりよいこの構想の実現というのにつながっていくのではないかと考えた次第です。

○座長 委員、どうぞお願いいたします。

○委員 一つお願いがあるのですが、この資料3とか非常に文字が小さいので、できれば大きな資料でお願いしたいと思います。

あと、それから今度、小さな分科会でディスカッションをするというお話だったのですが、どういうジャンルでグループ分けするのか、少し教えていただきたいと思います。

○事務局 分科会の分け方としましては、基本施策でⅠからⅣがございますので、基本この単位で分けて実施したいと考えておりまして、その際、皆様のほうに御希望を先にお伺いしまして、御希望の分野ごとに、それぞれ分科会を分けるように考えています。

その際には、希望の偏り等もあるかと思うので、その際は多少調整をさせていただくか、もしくは四つではなく二つに分けて、似た分野は同じ部会という形でやらせていただくか、その辺は皆様の御希望等を聞きながら、また進め方等は御相談させていただければと考えています。

○座長 よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。神谷副座長、いかがでしょう。

○副座長 長時間にわたりお疲れさまでございます。確かに、字が小さくて見えないのは非常に困るところです。また、前身の会議体から出させていただいているのですが、やはり先ほどからいろいろ御意見あります、この戦略プランに対しての、いわゆるマネジメントシートから意見を、皆様で議論を交わすわけですが、先ほどから出ていますとおり、少し分かりづらいというか、問題の抽出の場所なのか、果たして、先ほどから出ています評価の仕方がどうあるべきなのかというのが、最初分かりにくいところが、最初の御参加の方はあったのかというところがあります。そういったところをいろいろ注意しながら、次に進めていければいいのかと思うところもあります。

やはり各団体、様々な観点をお持ちの皆様がおそろいですので、先ほど一つの事業を例に挙げたとしましても、例えばこれが学園地区の問題、先ほど出ました周辺地区、いわゆる在の問題であるとか、そういったところの論点は非常に重要でありますので、そういったところから一つ一つのこのシートに対して

御意見をいただきながら、先につなげていく、2030年に向けてつないでいくという貴重な時間の議論を今後も交わしていければいいのかと思います。

冒頭、市長からも、絵に描いた餅というお話もありましたが、まさにそういった形にならないように、具体的に市民サービスに資するような一つ一つの問題にしていければいいのかと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○座長 私も最後に一言。まずは、皆様に参加いただきましたことにお礼を申し上げます。

今回は、推進会議で、これが立ち上がったということが非常に重要なことだと理解しています。こちらの事業は、2030年がマイルストーンという非常に長期的な取組と伺っていますので、今日のような忌憚のない御意見がこれから非常に重要になってくるのではないかと思いますので、引き続き委員の皆様には御協力をお願いできればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、事務局のほうからよろしくお願いいたします。

○次長 それでは、皆様、長時間にわたりまして御議論いただきまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして閉会とさせていただきたいと思います。皆様お疲れさまでした。